

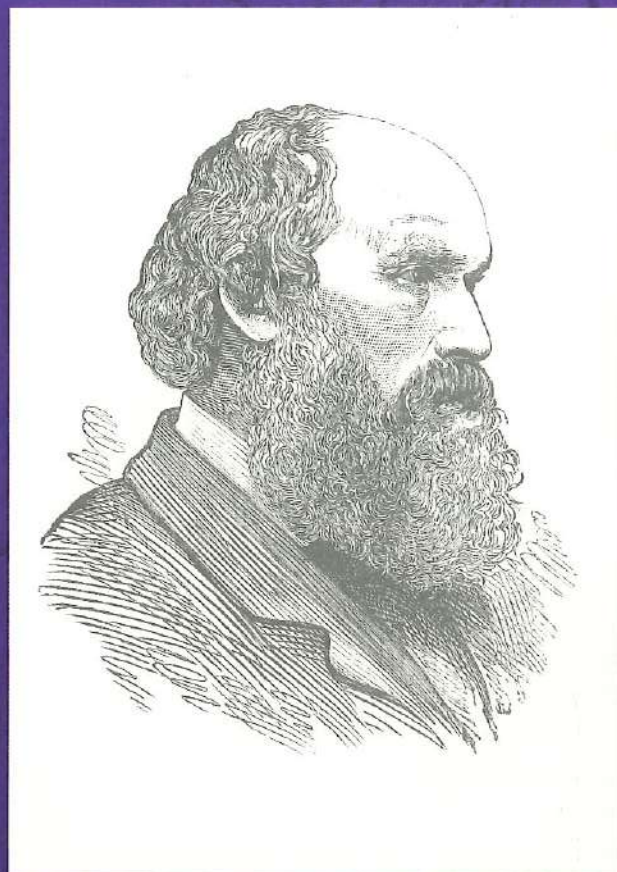
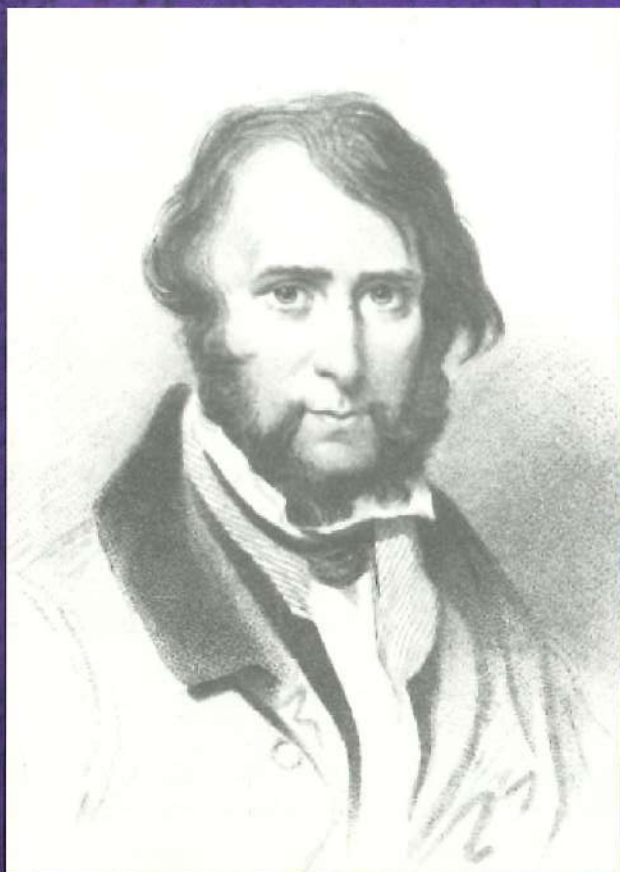
ATHENA LIBRARY OF LIFE WRITING

LW
005

2012

【ライフ・ライティング】シリーズ Part 5

イギリスの芸術家Ⅱ



ヴィクトリア朝小説と深い関わりを持った
挿絵画家ジョージ・クルックシャンクとハプロ・ナイト・ブラウンの伝記を復刻。
19世紀イギリス文化研究の、さらにはヴィクトリア朝小説研究の
掛替えのない重要資料。

別冊解説：松村昌家(大手前大学名誉教授)

Part 5: Volumes 24-26

定価(本体 **56,000**円+税)

ISBN 978-4-86340-123-5 ・ 全3巻(分売可)+別冊解説

Athena Press

G. Cruikshankと“Phiz”の伝記初版本復刻

松村 昌家 ● 大手前大学名誉教授

アティナー・プレスの企画による Life Writing シリーズ第 5 部、イギリス芸術家編その 2 として、次の 3 点 4 冊の初版復刻版が刊行される運びとなった。

1. Blanchard Jerrold, *The Life of George Cruikshank in Two Epochs*, 2 vols., 1882.
2. David Croal Thomson, *Life and Labours of Hablot Knight Browne: "Phiz"*, 1884 (250 部限定出版).
3. Edgar Browne, *Phiz and Dickens as They Appeared to Edgar Browne*, 1913 (著者サイン入り 175 部限定出版).

最初のブランチャード・ジェロルド(Blanchard Jerrold)は、劇作家・ジャーナリストとしてディケンズと親交のあったダグラス・ジェロルド(Douglas Jerrold)の息子。フランス人画家ギュスターヴ・ドレ(Gustave Doré)と組んで、*London: A Pilgrimage* (1872)を著し、そのテキストを執筆したことで知られる。

B・ジェロルドが本書 *The Life of George Cruikshank in Two Epochs* をドレに献呈しているのは、そのような^{よしみ}誼があったからだが、献呈の辞の中には、それとは別に注意すべき言説が含まれている。

ジョージ・クルックシャンク(George Cruikshank)のエッチングや版画を見るにつけて、ドレが描いたラブレールの作品のイラストレーションや、バルザックの『風流滑稽譚』の挿絵などの「強烈な類似性」を感じずにはいられない、と彼は述べているのである。

この天才的風刺画家、挿絵画家の生涯の物語は、標題に見るように二つの時代(two epochs)に分かれる。すなわち 1792 年から 1847 年までと、1848 年から 1878 年までの前後期の時代区分だ。

この区分は、ジョージ三世からリージェンシーを経て、ヴィクトリア朝にかけての激動の時代と重なり、歴史的・文化史的観点から非常に興味深い。その時代の流れの中で、クルックシャンクは、ジェイムズ・ギルレイ(James Gillray)やトマス・ローランドソン(Thomas Rowlandson)とは一味違った風刺画への道を切り開き、チャールズ・ディケンズ(Charles Dickens)の『オリヴァー・ツイスト』の挿絵を通じて、「比類なきジョージ」と謳われるようになった。

そんな彼が前期人生の終わり頃からまるで人が変わったように絶対禁酒主義者(total abstainer)になり、『酒びん』(*The Bottle*, 1847)、『飲酒者の子どもたち』(*The Drunkard's Children*, 1848)といった連作画を発表した。そして遂には『ジャックと豆の木』『シンデレラ』『長靴をはいた子猫』といった童話の世界までも、禁酒主義プロパガンダで塗り変えてしまうようになる。もちろんそのように偏った彼の後半生が幸せをもたらすことはなかった。

ある意味ではクルックシャンクとライヴェル関係にあったのが、ハプロ・ナイト・ブラウン(Hablot [hab-lo] Knight Browne)だ。ブラウンが「ボズ」("Boz")と語呂を合わせるために「フィズ」("Phiz")を名乗るようになったというのも因縁じみる。『ピクウィック・ペーパーズ』から『二都物語』に至るまで、ディケンズの主要作品 13 編のうち、10 編の挿絵を、フィズが描いているのである。

そもそも作家と挿絵画家との間には、いろいろな秘話があって当然だが、なかでもディケンズとフィズとの間には知られざるドラマが多かった。



周知のようにディケンズの作品はほとんどの場合、原則 32 ページに挿絵 2 葉入りの分冊で月刊された。書くほうは大変だが、挿絵を描くほうの苦勞は察して余りある。時間がさし迫ったときには、ディケンズはテキストを早口で読み聞かせるだけで挿絵を指示して、さっと引き上げてしまうこともしばしばであった。しかも彼は挿絵に対して人一倍気むずかしい。フィズにとっては、まさに骨身を削るような重労働の連続であったに違いない。著者のデヴィッド・クロール・トムソン(David Croal Thomson)がその標題に特に“Labours”という語を取り入れた理由がよく伝わってくるのである。

伝記の著作において、書き手の偏見や依怙は禁物だ。トムソンはこの点に留意し、あくまでもフィズの作品群の「本質的な価値に則して」彼の挿絵画家としての仕事を評価するように努めた。

1862 年 10 月 6 日付 *Pall Mall Gazette* 所載の書評記事は本書のこのような特徴を高く評価しつつ、たとえ些細な問題点はあるにしても、「本書は books of the year の候補として、考慮すべき資格を十分に具えている」と結論づけている。

トムソンがこのフィズ評伝を物するとき、最も大きな恩恵を蒙ったのは、エドガー・ブラウン(Edgar Browne)であった。エドガー・ブラウンとはほかならぬハプロ・ナイト・ブラウンの長男で、本書 *Phiz and Dickens as They Appeared to Edgar Browne* の著者でもある。

文字どおりユニークなこのフィズ伝は、まず“Hablot”(あるいは“Hablot”)という名前の由来の解き明かしからはじまる。

そしてロバート・シーモア(Robert Seymour)の後を継いで、『ピクウィック・ペーパーズ』第 4 分冊(1836 年 7 月)から挿絵を担当したフィズの長年にわたる活動の軌跡が展開される。

エドガーは父親の超人的な仕事ぶりを冷静着実にたどりつつ、彼の生い立ちから挿絵画家としての修業や交友関係、時代性、そしてユーモアと戯画的要素とのなめらかな交ぜの気質等々、父親ブラウンの“life”の側面をも色彩豊かに描き出しているのである。

そこにはまたチャールズ・リーヴァー(Charles Lever)や、ウィリアム・ハリスン・エインズワース(William Harrison Ainsworth)の挿絵画家として、フィズが特異な技能をふるっていることについても、相応のスペースをさいて考証されている。しかし、版画とデザインの量と質からみて、フィズはディケンズと結びついてこそ、真のフィズであった。

2011 年 11 月に同じくアティナー・プレスで復刻刊行されたウィリアム・パウエル・プリス(William Powell Frith)の『ジョン・リーチの生涯と作品』(*John Leech: His Life and Work*, 2 vols, 1891)を含めると、ディケンズをめぐる挿絵画家三巨頭の伝記がそろったことになる。これらの挿絵画家に関する研究は、単にディケンズ小説をより面白く鑑賞する道に通じるだけではない。ヴィクトリア朝小説のあり方の本質に迫ることにもなるのである。

Part 5 : Volumes 24–26 : イギリスの芸術家 II

全3巻(分売可)+別冊解説: 松村昌家(大手前大学名誉教授)

ISBN 978-4-86340-123-5 • c. 1300 pp. 定価 本体56,000円+税 ▶2012年11月

Contents

Volume 24: Blanchard Jerrold *The Life of George Cruikshank in Two Epochs* (1882)

ISBN 978-4-86340-124-2 • 2-in-1 vol. • 588 pp., 22 pl.
21,000円+税

Two Epochs • From Cranach to Cruikshank • Cruikshank's Early Days • Cruikshank as a Political Caricaturist • "Life in London," "Life in Paris," "Points of Humour," etc. • Hand-to-Mouth Work • "Three Courses and a Dessert" • "Sketches by Boz," "Oliver Twist," and "The Life of Grimaldi" • Illustrations to Harrison Ainsworth's Romances • "The Omnibus" • "The Comic Almanack" • "Lord Bateman" and "The Table Book" • Cruikshank Described by His Friends • At Gillray's Grave • "The Bottle" • George Cruikshank as a Teetotaler • "The Triumph of Bacchus" • "Frauds on the Fairies" and "Whole Hogs" • "A Slice of Bread and Butter" • Cruikshank's Last Twenty Years • The End • List of Works Illustrated by George Cruikshank • Cruikshank's Description of "The Worship of Bacchus"

Volume 25: David Croal Thomson *Life and Labours of Hablot Knight Browne: "Phiz"* (1884)

ISBN 978-4-86340-125-9 • 250 pp., ill.
15,000円+税

Preface: Memoir of Hablot Knight Browne • "Phiz" as an Illustrator: The Art of Illustration • The Original Drawings for Dickens's Works • The Illustrations to "Pickwick": Drawings and Plates • The Illustrations for Dickens's Works Other Than "Pickwick" • The Illustrations for the Works of Lever • The Illustrations for Ainsworth's and Smedley's Works • Hablot Browne as a Colourist: His Water-Colour Drawings • Other Water-Colour and Pencil

Drawings, Chiefly for Illustrations • Oil Paintings • Miscellaneous Books • Exhibitions of Hablot Browne's Works • Hints to Collectors of the Works of "Phiz" • Method of Work and Position as an Artist • Index • List of Books Illustrated by "Phiz"

Volume 26: Edgar Browne *Phiz and Dickens as They Appeared to Edgar Browne* (1913)

ISBN 978-4-86340-126-6 • 334 pp., 37 pl., incl. 10 col., ill.
20,000円+税

Hablot Knight Browne: His Name and Calling • His Life and Friends in London • Home Life in Croydon • Mr. Bicknell and His Friends • Dickens and Some of His Illustrators • The Reputed Originals of Some of Dickens' Characters • The Theatre: Macready, the Keans, Phelps and Sadler's Wells, Robson, T. P. Cooke • Amusements of the Poor • Entertainments, Readings, and Every Man for Himself • Music: Wholesale Amateur Songsters • Early Victorian Illustrations • Charles Lever: The Man and His Books • Harrison Ainsworth: A Man of Many Parts • Charles Dickens: His Humour and Pathos – "A Tale of Two Cities" – A Coincidence • Hablot Browne: His Personality and Works • Phiz the Illustrator • Final Years • Index



George Cruikshank (1792–1878)



風刺画家 Isaac Cruikshank の第2子。幼少期より父の仕事場で描画とエッチングを学ぶ。若いうちから政治や社会の風刺画家として知られ、摂政(のちのジョージ四世)時代の墮落した宮廷、ナポレオン、遊興狂い、奇を衒ったファッション、酒落者たちなどを描き風刺した。出版の自由を標榜する出版者 William Hone と共同で、*Bank Restriction Note*

(1818)や *The Political House That Jack Built* (1819)など、風刺文学として知られる作品を残している。Pierce Egan が兄 Robert と共同で、摂政時代のロンドン生活風景を描いてベストセラーとなった *Life in London* (1820–21)で挿絵を担当して大成功を取めた後、英語版のグリム童話、『ロビンソン・クルーソー』や『ドン・キホーテ』といった古典作品、ディケンズの *Sketches by Boz* と *Oliver Twist* をはじめとして Harrison Ainsworth や Walter Scott の小説ほか多くの作品の挿絵を次々と手掛け、雑誌についても *Bentley's Miscellany* や *Ainsworth's Magazine*、そして自身が刊行した *Comic Almanack* (1835–53)などで多くの挿絵を描いている。1840年代半ばより禁酒主義を強く支持するようになり、巨大なキャンバスに描いた『バックス崇拝』*The Worship of Bacchus* (1862)のほか、『酒びん』*The Bottle* や『酒飲みの子どもたち』*The Drunkard's Children* などの連作版画シリーズを製作した。晩年は、おとぎ話のシリーズ、ヘンリー・メイヒューの著作やジュリアナ・ユーイングの子どもの物語、イギリス版のストウ夫人『アンクルトムの小屋』などに挿絵を描いているが、以前のような支持は得られなかった。とはいえ残した作品とその文化的影響力を考えると、クルックシャンクは1820年代から1830年代にかけての最も偉大なイギリス人挿絵画家であったことに変わりはない。ここでは、19世紀イギリス文化研究の視点からも有益な内容を備える Blanchard Jerrold による伝記を取り上げる。

Hablot Knight Browne, "Phiz" (1815–1882)

少年時代のブラウンが受けた正規の教育としては St Martin's Lane Academy での不規則的な授業と Finden 兄弟の版画工房での徒弟奉公だけであった。1834年に奉公仲間での生涯の友となるロバート・ヤングと共同で挿絵画家工房を開く。1836年に挿絵画家のロバート・シーモアが自殺したあと、ディケンズは連載中の *Pickwick Papers* のイラストレーターにブラウンを選んだ。以来ブラウンは、ディケンズが用いていたペンネーム "Boz" に倣って "Phiz" を名乗る。こうして20年以上の間、彼はディケンズの主要なイラストレーターとなり、ディケンズの作品世界を絵で表現して見せた。ブラウンは1840年代から1850年代にかけて全盛期を迎えたとと言える。彼はディケンズの小説に加えて Charles Lever, Harrison Ainsworth, Anthony Trollope などこの時代の主だった作家の作品に挿絵を描いており、また *Ainsworth's Magazine*, *Punch*, *Once a Week*, *Judy* ほか数多くの挿絵入り雑誌のなかにも彼の挿絵を見ることができる。ブラウンの作品の数は膨大なものであったが、1860年代に入るとその作風は時代遅れの感が否めなくなる。1867年、病気で体に麻痺が生じてから作品は次第に発表されなくなってしまっ

たが、彼の業績全般への評価は高く、これによりロイヤルアカデミーから年金が支給されている。ここでは没後早い時期に書かれた2冊の伝記を取り上げる。一冊目の著者 David Croal Thomson は 影響力の強い美術商、芸術評論家。 *Art Journal* 誌の編集者を1893年から1902年まで務めた。もう一冊は、ブラウンの長男 Edgar Athelstane Browne (1842–1917)によるもの。いずれも最も貴重な資料に基づく、掛替のない "Phiz" 伝である。



ATHENA LIBRARY OF LIFE WRITING

研究の新たな視点を切り開く、「ライフ・ライティング」のテーマ別集成。自伝や評伝、回想録、日記類、手紙、あるいは旅の記録など、文字ばかりでなく口述されたものもその範囲とする「ライフ・ライティング」は有益な研究対象と考えられています。各巻の分売もいたします。

Part 1: Volumes 1-8: 19世紀末イギリス舞台女優

全8巻+別冊解説：河内恵子(慶應義塾大学教授)

ISBN 978-4-86340-050-4 • c. 3000 pp.

定価 本体133,000円+税 ▶2010年

Part 2: Volumes 9-12: アメリカ児童文学作家 I

全4巻+別冊解説：三浦玲一(一橋大学教授)

ISBN 978-4-86340-085-6 • c. 1900 pp.

定価 本体75,000円+税 ▶2011年

Part 3: Volumes 13-18: アメリカ児童文学作家 II

全6巻+別冊解説：三浦玲一(一橋大学教授)

ISBN 978-4-86340-090-0 • c. 2350 pp.

定価 本体95,000円+税 ▶2011年

Part 4: Volumes 19-23: イギリスの芸術家 I

全5巻+別冊解説：松村昌家(大手前大学名誉教授)

ISBN 978-4-86340-097-9 • c. 1850 pp.

定価 本体84,000円+税 ▶2011年

Volumes 19-21: William Powell Frith *My Autobiography and Reminiscences* (1887; 1888 ed.)

ISBN 978-4-86340-098-6 • 3 vols • 51,000円+税

Volumes 22-23: William Powell Frith *John Leech: His Life and Work* (1891)

ISBN 978-4-86340-099-3 • 2 vols • 33,000円+税

Part 5: Volumes 24-26: イギリスの芸術家 II

全3巻+別冊解説：松村昌家(大手前大学名誉教授)

ISBN 978-4-86340-123-5 • c. 1300 pp.

定価 本体56,000円+税 ▶2012年11月

Volume 24: Blanchard Jerrold *The Life of George Cruikshank in Two Epochs* (1882)

ISBN 978-4-86340-124-2 • 2-in-1 vol. • 21,000円+税

Volume 25: David Croal Thomson *Life and Labours of Hablôt Knight Browne: "Phiz"* (1884)

ISBN 978-4-86340-125-9 • 15,000円+税

Volume 26: Edgar Browne *Phiz and Dickens as They Appeared to Edgar Browne* (1913)

ISBN 978-4-86340-126-6 • 20,000円+税

Part 6: Volumes 27-30: イギリス舞台女優 1890-1920

全4巻+別冊解説：河内恵子(慶應義塾大学教授)

ISBN 978-4-86340-142-6 • c. 1500 pp.

定価 本体64,000円+税 ▶2012年11月



【発行】

Athena Press

株式会社 アティナー・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】